

キューバの実情紹介に多彩なイベントを展開 キューバ友好円卓会議10年のあゆみ



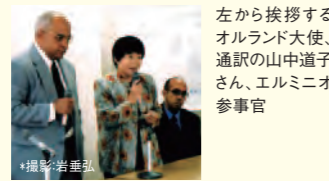
キューバ友好円卓会議の設立総会は2003年9月27日に東京の明治大学で開かれ、キューバとの友好を目指す首都圏コープ事業連合（現パルシステム生活協同組合連合会）、国際交流NGOピースポルト、キューバに自転車を送る会、キューバに鍼を送る会などの関係者のほか、労働運動家、学者、ジャーナリストらが集まりました。

設立の目的は「キューバとの友好促進」と「キューバに関する情報交換と情報の発信」。当時、日本のキューバ情報は、米国経由のものが圧倒的に多く、実情が正確に伝わりにくいという事情があり、キューバ情報をできるだけ正確に、それも直に日本国民に伝えようというのが、円卓会議設立メンバー共通の思いでした。

以来、円卓会議は、そうした目標を実現するために年に1〜2回、フォーラム、シンポジウム、講演会などのイベント開催のほか、ハリケーン災害の支援活動なども行ってきました。

2003

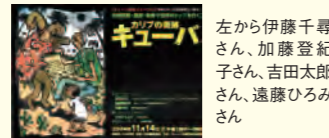
9/27 明治大学
キューバ友好円卓会議設立総会
オランダ・エルナンデス大使とエルミノ・ロベス参事官を迎えて。



左から挨拶するオランダ大使、通訳の山中道子さん、エルミノ参事官

2004

11/14 日本教育会館
革命45年／外交関係樹立75周年・キューバ友好フォーラム
「有機農業・医療・教育で世界のトップを行くカリブの奇跡キューバ」
伊藤千尋さん、加藤登紀子さん、吉田太郎さんらのトーク&中村とうようさんのトークとレコードコンサート。



左から伊藤千尋さん、加藤登紀子さん、吉田太郎さん、遠藤ひろみさん

2005

7/16 日本教育会館
キューバ友好フォーラム
「フィデル・カストロを語る」
元キューバ大使／田中三郎さん



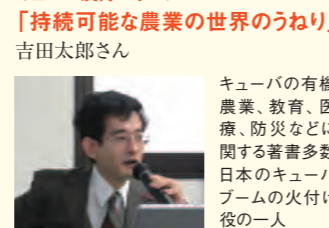
2005年2月に出た初著書「フィデル・カストロ 世界の無限の悲慘を背負う人」で注目を浴びる。

9/11 パルシステム連合会
キューバ友好フォーラム
「ラテンアメリカの地殻変動とキューバ」
伊高浩昭さん [下左]

「キューバから見た世界」
元キューバ大使／馬淵睦夫さん [下右]



11/20 パルシステム連合会
キューバ友好フォーラム
「持続可能な農業の世界のうねり」
吉田太郎さん



キューバの有機農業、教育、医療、防災などに関する著書多数。日本のキューバブームの火付け役の一人

2006

9/9 パルシステム連合会
キューバ友好プレフォーラム
「キューバの医療国際人道支援のあり方」
キューバ大使館参事官／エルミノ・ロベスさん

11/25 明治大学
キューバ友好フォーラム
「医療先進国の知られざる国際人道支援活動」
キューバの女医アルレニス・パロツ・ペレスさんを迎えて
講演と天明佳臣さん、松本文六さん、関野吉晴さん、加茂雄三さんらのトークセッション。ほかにキューバを訪問した慶應義塾大学医学生の報告など。



右からアルレニスさんと通訳の星野弥生さん



パネリスト。左から天明佳臣さん、松本文六さん、関野吉晴さん、加茂雄三さん

12/2 北沢タウンホール
「ふたつの未来 遺伝子組み換えか? 有機農業か」
アルレニス・パロツ・ペレス医師、吉田太郎さんのトーク。
ドキュメンタリー映画「サルー! ハバナ…キューバ都市農業リポート」と「食の未来」上映（日本有機農業研究会科学部と共催）。



[左]「サルー!ハバナ」の井坂泰成監督の挨拶 [右]満席の上映会場

2007

9/29 パルシステム連合会
キューバ友好プレフォーラム
「キューバ、ベネズエラ、ボリビアの連帯と『民衆の間の貿易協定』」
キューバ大使館参事官／エルミノ・ロベスさんの講演。



講演終了後は、参事官を退任して帰国するエルミノさんの送別会を開催。樋口篤三さん(円卓会議前共同代表・故人)と。

10/13 明治大学
キューバ友好フォーラム
「ラテンアメリカの地殻変動…急速に進む脱アメリカの潮流」
加茂雄三さん、富山栄子さん、所康弘さんらの講演。
共催：明治大学革縮平和研究所

2008

1/26 東大医科学研究所
キューバ医療に関する講演会／ツアー説明会
「世界がキューバ医療を手本にするわけ」
吉田太郎さん講演

2/8〜16 キューバ
キューバ医療見学ツアー実施
「キューバ医療を見学する旅」
医療関係者を中心に35名の旅。保健省の専門家による「キューバの保健システム及び精神保健システム」の講義。ファミリードクターの診療所、ポリクリニコ、老人病院、伝統医療研究センター、熱帯医学研究施設「フィンレイ研究所」、ラテンアメリカ医科大学、老人サークルなどを見学。

※2/16〜21 オプションツアー参加者はサンタクララ、トリニダ、サンチアゴ・デ・クーバへ



ハバナの革命広場で



[左]サンタクララの革命広場のゲバラ像の前で [右]ラテンアメリカ医科大学を見学

5/17 明治大学
キューバ友好フォーラム／アレイダ・ゲバラさん初来日記念
「アレイダさんが語る父チェ・ゲバラのこと、キューバの医療のこと」
「阿部知子さんと語る子どもたちの未来」

午前中はドキュメント映画「チェ・ゲバラ最期の時」と「チェ・ゲバラ英雄の素顔」を上映。
午後は初来日のチェ・ゲバラの長女で小児科医のアレイダ・ゲバラさんを迎えて。コーディネーターに伊高浩昭さん。



立見も出たため急速第2会場でもTV中継も



写真家・近藤彰利さんがキューバで撮影したゲバラの写真をアレイダさんにプレゼント

2009

1/24 なかのZERO小ホール
キューバ革命50年・ゲバラ生誕80年記念
キューバ友好フォーラム
「知られざる豊かな国 キューバを通じて見えてくる世界」
第1部=白根全さん、工藤律子さん、吉田太郎さん、戸井十月さんらの講演
第2部=アントニオ・古賀さん、アレキサンダー・ラポルデ・パドロンさんらのギター演奏と歌。ヨスベル・シスカルド・ヒメネスさんと郷田優気さんらのサルサ。



[上]「革命から50年。この間、キューバはアメリカの圧力に屈しませんでした」とホセ・フェルナンデス・デ・コシオ駐日キューバ大使 [右中上]アントニオ・古賀さん [右下]戸井十月さん

立教大学ラテンアメリカ研究所主催講演会 現代キューバ情勢 講師=マルコス・ロドリゲス駐日キューバ大使 報告=河内茂幸(翻訳家)

2013年10月26日(土)に同大学池袋キャンパス マキシムホール3階 M302教室で開催された講演会の概要を報告します。講演・質疑応答会は全体で3時間(15:00〜18:00)に及び内容の濃いものでした。

独立を勝ち取るための「戦争の90年」

1492年コロンブスによる発見に始まり、征服後キューバを植民地支配し続けていたスペインに対する独立運動が1868年

に開始され、この民族解放戦争が30年を経過した1898年にはアメリカ合衆国が介入して米西戦争に発展しました。1902年キューバは独立を達成しましたが、同時にアメリカ合衆国によ

る支配が始まり、その支配は1959年のキューバ革命政権誕生まで続きました。

1868年に始まった民族解放戦争から1959年の革命政権誕生までの約90年間は、キューバが外国による支配から真の独立を勝ち取るための「戦争の90年」でした。

無料の教育制度と医療制度を確立

1959年の革命勝利の直後から行われた根の深い変革のなかでも、1年間という短期間(1961

〜1962年)での識字運動により非識字者が一掃され、それまで読み書きのできなかった人々にも教育の機会の平等が保障されることになりました。革命によってすべての人々に対する無料の教育制度と医療制度が確立されたことが、今日のキューバ国民の中に占める大卒者数の高い割合と平均寿命の長さにつながっています。

現在、国民人口のほぼ10%に当たる約120万人が大卒者であり、平均寿命は女性が80歳、

男性が78歳です。また、女性に対して男性と同じ機会の平等が保障され、現在、女性労働者の約60%が専門職に従事し、議会では議員の約50%を女性が占めています。

ソ連崩壊で経済危機、2011年から抜本的な経済改革を実施

経済的に大きく依存していたソ連が1991年に崩壊したことによりキューバは経済的困難に直面し、経済を再構築する必要に迫られました。一連の経済・

財政改革措置により経済的改善を図るも、ここ数年の世界的経済不況はキューバにも大きく影響し、経済問題が最大の課題となるに至りました。そして、現状に合わせて経済システムを見直し、課題に対処すべく2011年から抜本的な経済改革が実施されています。

その経済改革では、生産の効率を高めて経済を活性化し国民の生活水準を上げるために、いくつかの政策が実施されています。その基本は、国家によるコ

ントロールを減らし経済活動における国家の役割を変える(官僚主義を減らす)ことにあります。農業ではさまざまな形態の協同組合農場が中心となり、企業でも協同組合、個人営業、外資企業の割合が大幅に増えました。農業改革によって、食料自給率(現在、食料自給率:約20%、食糧輸入額:約20億ドル/年)の増加を目指しています。新しい企業形態の中でも、個人営業者数は2015年までには約50万人に達する見込みです。また、

外資による投資は、キューバの新しい経済モデルの中での基本支柱となるものであり、100%外資でも、49%対51%の割合でも可能なので、とくに日本からの投資に期待しています。所得税も徴収されることになり、社会保障も有料化されました。ただし、教育と医療の無償制度は今後も維持されます。

新しい経済モデルの中で社会主義をどう理論づけるか

人々は社会主義の新しい経済モデルとして企業活動を営み、